

# 市長提案説明



北京オリンピックピックでの日本選手を始め各国選手の活躍は、見ている私たちにも感動が伝わり、勇気や元気をもらった。こういった気持ちを今後の市政の運営に生かしたい。

平成11年度より計画的に進めてきた学校校舎の耐震対策については、5月の中国四川大地震、6月の岩手・宮城内陸地震、7月の岩手県沿岸北部地震などの教訓から計画の2年前倒しを決定した。

また、合併協議の調整未了項目の一つである額田地区の小学校については、旧額田地区小学校適正規模研究検討委員会から、22年4月より8校を5校にする結果報告が提出された。閉校が予定される3校の跡地利用については、地域の活性化の一助となるよう検討を行っていく。

## 平成19年度決算

地方自治体を取り巻く財政環境が厳しい中、本市は予算の位置付けを「教育・福祉の充実と活力のある都市創生予算」とし、少子高齢化対策、都市基盤の整備などの施策を推進してきた。増大する市民需要に的確に対応して市民福祉の向上に努め、数々の成果を得るとともに、適正な決算となり財政の健全性も維持することができた。

### ★一般会計

歳入は117.3億7787万円、歳出は112.8億7027万円で、翌年度への繰越事業充当財源を差し引いた純剰余金は38億9556万円となった。

歳入では、歳入全体の57.9%を占める市税収入が、所得税からの税源移譲や定率減税の廃止及び企業収益の改善などにより、前年度対比109.7%となり4年連続で前年度を上回った。また、国・県からの歳入や繰入金などを含む歳入全体では前年度対比107.4%となった。

歳出は、総合計画で示す六つの柱のうち「都市基盤の整備」では、公共交通利用促進事業を始め名古屋鉄道美合駅バリアフリー化整備

事業への補助、公共施設耐震化事業、図書館交流プラザ建設事業などを、「保健医療福祉の充実」では、岡崎げんき館整備事業を始め児童育成センター建設事業、児童手当の拡充、東部地域福祉センター建設事業などを、「都市環境の整備」では、新一般廃棄物中間処理施設建設事業を始め動物総合センター建設事業、総合検査センター建設整備事業、市営住宅土井荘建替事業、下水道整備事業などを実施した。また、「地域社会の充実」では、西部地域交流センター建設事業を始め小・中学校及び幼稚園の防犯対策事業、都市交流事業などを、「教育文化の振興」では、竜美丘小学校校舎増築事業を

始めとした小学校校舎全舎整備事業、美川中学校屋内運動場改築・柔剣道場新築事業、いのちの教育アクションプラン事業などを、「産業の振興」では、若年者職業的自立支援事業を始め屋形船による観光船運行事業、農地・水・環境保全向上対策事業などを実施し、市民福祉の向上と社会資本の整備充実

### ★特別会計

特別会計全体の歳入決算額は、

100.5億5485万円、歳出決算額は99.9億3528万円で、翌年度への繰越事業充当財源を差し引いた純剰余金は5億6992万円となった。

下水道会計は、着実な事業の進捗が図られ、公共下水道普及率は4.3ポイント上昇し、76.2%となった。

国民健康保険会計では、被保険者数はほぼ横ばいであるが、給付件数が増加し、歳入歳出ともに前年度対比で増額となった。

介護保険会計では、要介護・要支援認定者の増加に伴う保険給付の増により、歳入歳出ともに前年度対比で増額となった。

### ★企業会計

病院事業会計では、入院患者数、外来患者数ともに減少し、11億6215万円の純損失となった。依然として厳しい状況にあるが、今後も市民の健康を守る病院として信頼に応えらるとともに、健全経営に努めていく。

水道事業会計では、給水人口や有収水量が増となり、9億5074万円の純利益となった。今後も、公営企業として経済性、効率性を発揮するとともに安定安全給水に努めていく。